



付属の取扱説明書をよくお読みの上、ご使用ください。

空間中に漂う臭気を測定した場合、POLFA で得られる値（PF 値）は概ね下記のような意味合いを示します。

ただし、**臭気の種類や測定環境により**この範囲に収まらない場合がございます。あくまでも目安としてご使用いただきますようお願いいたします。

表.1 空間中臭気のPF 値と実用的な意味（目安）

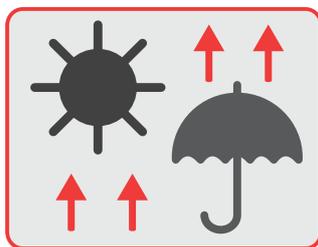
※悪臭防止法において規制値の元となる強度

PF値	実用的な意味	6段階臭気強度
150～200	無臭	0
200～240	（何のにおいかはわからないが）やっと感知できるにおい	1
240～270	何のにおいかわかる弱いにおい	2
270～300	（人によっては苦情が出始める可能性があるにおい）	2.5
300～330	楽に感知できるにおい	3
330～360	（苦情対策が必要になるにおい）	3.5
360～450	強いにおい	4
450以上	強烈なにおい	5

※上記指標は弊社の独自基準です。

※上記指標は空間中の臭気に対しての対応表であり、**臭気発生源や測定対象物を直接測定する場合は当てはまらない**場合がございます。

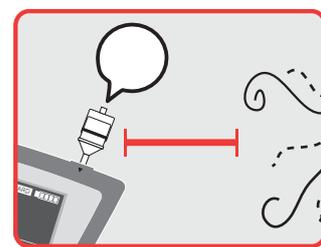
※ニオイセンサー POLFA は、温度や湿度などの環境要因による影響、臭気に含まれる成分により測定値が変化いたします。PF 値を比較される際は、なるべく同じ条件で測定を行ってください。



温湿度の影響を受けます。
温度・湿度が高くなるほど測定値も高くなり、温度湿度が低いほど測定値も低くなる傾向があります。



人が多い空間や風の流れが悪い空間はにおいが籠もりやすいため測定値が高くなる傾向があります。



においの発生源との距離によって測定値が大きく変わります。測定条件は都度同一になるようご注意ください。

単体成分毎による感度特性

	アンモニア	メチルメルカプタン	硫化水素	トリメチルアミン	アセトアルデヒド	ホルムアルデヒド	酢酸エチル	有機溶剤	低級脂肪酸類	塩素	NOx/Sox	オゾン	アルコール類
感度特性	△	○	○	○	△	◎	◎	◎	○	※↓	※↓	※↓	※↑

測定場所による感度特性

	トイレ	塗装工場	喫煙室	新車車内	カフェ	ガソリンスタンド	火災現場
感度特性	△	◎	○	○	△	◎	○

※酸化性物質（塩素、NOx、SOx、オゾン等）は測定値を下げてしまう傾向にあるため正しく測定できない場合がございます。
※アルコール類は測定値を上げてしまう傾向にあるため正しく測定できない場合がございます。